
幸せと結末

静香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せと結末

【Nコード】

N9882A

【作者名】

静香

【あらすじ】

私は父と仲が悪い、家をでていこうと考え実行する。幸せになりたい。私がつた行動と結末は。意外な結末とは？

（前書き）

みなさん、はじめまして。はじめて投稿してみました。あらすじはまだまだですがじょじょに腕をあげていい作品をどんどん投稿していきたいとかがえています。これからもよろしくお願いします。

「私」

私は結城さくら、21歳。フリーター、高卒。

つまらない毎日を送っている。つまらない日常にはわけがある。それは私と家族の問題だ。家族というのは名ばかりで血が繋がってることだけ。「家族」はとうの昔に同じひとつ屋根の下で暮らしている「他人」となった。私の家族は5人家族だ。まずは父と母。両親は共働きで母はパートにでている。そしてきょうだい三人。まずは長女である私と長男19歳の弟せいご、今年の四月に高校を卒業をしてその後家に嫌気がさし遠い地方で鉄工業の社員として寮生活を送っている。仕事はきついみたいだが充実した毎日を送っているらしい。そして次女17才で妹のしおり。高校2年生だ。毎日アルバイトと学校の両立で忙しい日々を送っている。一見他の家族と何も変わらないようだが家族を壊している原因は結城家の大黒柱である父が原因だ。父は会社員で人あたりはいいのだが家では会社のストレスをもちこんできて母、しおり、私にもどなる。特に機嫌の悪いときだ。私のはむかうといらいらは頂点に達し前に一回だけ床に私をたたきつけたことがあった。あのときは泣いて叫んだ。それから父とはさらに会話もしなくなった。母も父さんと私の喧嘩にはさまれ辛そうでもあった。昔はよくとめにはいつてくれたが今ももう疲れてた冷めた目で見ていただけだ。私は家族がいるのにいつも寂しい思いをしていた。部屋で一人ぼっちのように。いつも他の家族がうらやましくてしょうがなかった。何で私だけこんな孤独な気持ちでずっといなければならぬのだろうと。でもいつまでもそんなことを考えていてもしょうがない。自分が不幸と考えてしまつと他に不幸な人が私のことを笑うだろうから。私はそんな日常を変えたい、明るい世界に羽ばたきたいと人より願望が強くなった。

他の人にちつぽけなさいない事も幸せだということを受けとめられるようになりたい。私はそれから少ないお金を必死にためることにした。貯金がたまったら喧嘩をしたらそのまま家出しようと思つと考えていた。父なら私がでていくなれば「帰ってくるな」と言い返すはずだから。そして、何年かかかったけどお金がある程度たまつてきた。私は通帳を見るたびに幸せを空想するようになった。その時間だけが私にとってささいな幸せの一瞬だ。そしてとうとうその時がきた。朝、ささいなことで父と喧嘩した。私が今がチャンスだと思ひ私は「でていく」と怒鳴つた。父「ああ、でていけっ今晚から帰つてこなくていい」と私が予想していとりの展開になつた。「いたくてこんな家にいるんじゃない」といい返し、仕事に行かなくちゃいけないため少しの荷物をもつて仕事にかけた。必要なものは父がいないときに改めてとりに行くことにした。父は私の本気ででていくとは思つてないはずだ。お金をためていることすら知らないはずだし私の気持ちは全く知らないはずだ。それから私は、仕事が終わリアパートが見つるまで少しの間友達の家にお世話になることになつた。友達も私の家庭の事情を知っているため快く歓迎してくれた。いつでもでていけるように友達にはあらかじめ話していた。友達にもいつまでも迷惑をかけてもいられないから私はすぐに不動産屋に行き安くて少しぼろいけど小さなアパートに引越した。それからの私は一人での生活は最初は大変だつたけどじよじよになれて行つた。仕事も充実し精神的にも強くなつた。寂しさもあつたけどすぐになれていつた。父とは音信不通になり家のことは母のたまにしか連絡のとらないメールや電話だけになつた。それから数年後、父と母は離婚した。私は案の定何も変わらず一人の生活を楽しんでいる。母は私のアパートの近所で一人暮らしをしている。一緒に生活することも考えたが私は母と相談しそれぞれ自分の生活をしようと思つた。しおりはは美容関係に就職し地元で一人暮らしをしている。せいごは相変わらず忙しい日々を送っている。私はこの数年のできごとを思い出していた。父と喧嘩ばかりしてい

た毎日、怒鳴られる恐怖におびえていた頃。色々なことがあった。そして、父はというお酒の量がたたり入院生活を送っている。偶然知り合いが病院にいる父を見かけたらしい。もともと年齢を重ねるたびにお酒の量が増えていた。どうやら体のあちこちもやばいらしい。私達が出て行ってから父は荒れたのだろう。寂しさ大好きなお酒にもまれていったのだ。家族は今度こそばらばらになった。私はこの結末をすぐに理解できた。父も数年後の自分を想像すらできなかっただろう。でもこれは運命なのだからしょうがないことなのだ。私は夜空の月をながめながら思った、こうやってきれいな月をずっと見ていられるのも幸せのひとつだということ。。。

(後書き)

みなさん、どうでしたか？もちろんこの作品はノンフィクションです。この作品を読んで日常で感じるなさいなできごとにも幸せに感じてほしいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9882a/>

幸せと結末

2010年11月5日06時35分発行